

障がい者の超短時間雇用について

【意見・提案など】

私には発達障がいがあります。そのため一般の人と同様に働くことが難しく、また週20時間以上の勤務が求められる障がい者雇用も高いハードルだなと感じています。

そんな折、テレビで「障がい者の超短時間雇用」という特集を拝見しました。これは、1日15分以上の勤務から始められ、職務内容を明確に定義することで障がい者が就労しやすい環境をつくるというプロジェクトです。「IDEAモデル」と呼ばれ、東京大学の近藤武夫教授が提案しています。この取組みには企業だけでなく自治体の協力が不可欠ですが、実際に研究に参加している企業・自治体では一定の成果が得られているとのこと。

ここで要望です。南魚沼市もこのIDEAモデルに取り組んでいただけないでしょうか。もし実現すれば、私のように働きたいけれど働けない人たちにとって将来を開ききっかけ

になります。さらに障がい者にとって働きやすい環境を整備することは、健常者の働きやすさにもつながるはず。ぜひ、ご検討いただければ幸いです。

(平成30年11月)

【市からの返事】

「障がい者の超短時間雇用」(IDEAモデル)については、東京大学の近藤准教授と川崎市、神戸市、ソフトバンク社との間などで取組み、研究が行われているようです。

短時間労働者を複数人雇用することで障がいのある人の社会進出を促しながら労働力不足をまかなうこの取組みは、人口減少により労働力が不足している企業と障がいなどで長時間の労働が難しい人にとって、非常に魅力的なアイデアだと思います。しかし、このIDEAモデルは、企業が求める仕事の種類や環境と労働者のニーズとの整合性や効果検証など、まだ調査・研究段階であることから、国も正式に政策として推進しているものではありません。市としてもIDEAモデルの今後の動向については大変興味を持っています。調査・研究の成果がまだ明らかでない現段階では、この取組

みが製造業やサービス業が多い地域に合うのかも含めて判断できないため、今後、国などの動向を見ながら検討していきます。

いただいた提案は市役所内の関係部署と情報を共有し、市内企業に向けても情報の提供を行っていきます。

(担当：商工観光課)

ごみ収集について

【意見・提案など】

夏期も冬期もゴミ収集曜日、回数と同じですが、もえるゴミに限り回収回数を冬期は減らしても支障がないのでは？冬期は臭うことも余りなく量的にも減るのでは？回収回数を減らすことは経費節約につながると思います。

(平成30年2月)

【市からの返事】

大和地域の可燃ごみの収集は、月・水・金曜日の週3回です。収集量は、水曜日と金曜日がほぼ同量で、月曜日はその1.5倍です。休み明けにごみ量が増える傾向があります。月ごとの収集量は8月が最も多く、2月と6月が少なく、他の月は平均しています。2月は多少減るものの、冬期にごみの量が減少するといった

傾向はみられません。

可燃ごみの収集作業は、市の委託業者が車両3台で行っています。1台に積載できるごみの量には限度があり、収集日を少なくした場合はその分が他の収集日上乗せされることから、過剰積載が心配されることです。週3回に分散して収集することで、こうした問題が起きないようにしています。

また、ごみを毎回出す人もいれば、何日分かまとめて出す人もいます。週に2回よりも3回の方が、市民の利便性にもつながると考えています。ごみの排出量は、今後、人口減少に伴い減少すると考えられます。こうした状況をみながら、将来的に収集日や回収回数を検討しつつ、経費節減に努めたいと考えています。

(担当：廃棄物対策課)

